

## 「新潟の塔」慰霊祭 知事慰霊の言葉

本日ここに、新潟の塔慰霊祭の挙行に当たり、御遺族並びに沖縄県をはじめとする御来賓及び新潟の塔の改修に御尽力いただきました皆様の御参列の下、先の大戦で、かけがえのない命を失われた多くの方々に対し、謹んで慰霊の言葉を申し上げます。

あの苛烈を極めた先の大戦が終わりを告げてから、八十年の歳月が過ぎ去りました。

顧みれば、沖縄戦終焉の地である、ここ糸満市摩文仁の丘に眠る、本県出身の四万一千余柱のみたまは、先の大戦において凄惨な地上戦が行われた沖縄をはじめ、日本から遠く離れた南方諸地域において、ただひたすらに祖国の安寧と家族の無事を願いつつ、戦禍の犠牲となられ、尊い一命を捧げられました。

今日、私たちが享受している平和と繁栄の礎には、こうした多くの犠牲があったことを、片時も忘れることはできません。

美しく険しい海岸線を眼下に望むこの丘に立ち、安らかに鎮まる新潟の塔を前に、謹んで哀悼の誠を捧げ、みたまの御平安を心よりお祈り申し上げます。

また、御遺族の皆様におかれましては、最愛の肉親を亡くされ、深い悲しみと幾多の苦難に耐えて今日を迎えられたこれまでの御労苦に対し、心から敬意を表します。

終戦から、長い歳月が経ち、今や、戦後生まれが人口の九割近くを占めるようになった今日、戦争の体験と記憶の風化が危惧されます。

一方で、世界に目を向ければ、争いは未だ絶えることなく続いており、多くのかけがえのない命が失われています。

戦争の悲惨さと平和の尊さを、次の世代に未永く語り継ぐとともに、世界の恒久平和実現に向けて努力していくことが、今を生きる私たちの責務であると考えております。

県といたしましては、県民すべてが安全に安心して暮らせる、平和で豊かな故郷づくりに、全力を尽くしていくことを、みたまにお誓い申し上げます。

結びに、みたまが、とこしえに安らかでありますよう心からお祈り申し上げますとともに、御参列の皆様のお健勝と御多幸を祈念しまして慰霊の言葉といたします。

令和7年11月17日

新潟県知事 花角 英世